

毎月1回11日に発行しているNOW IS.の広報誌では、被災地域を盛り上げている人へのインタビューを掲載。長年地元で活動してきた人、震災を機にプロジェクトを立ち上げた人など、さまざまな人の声を届けています。



NOW IS. Vol.1で  
お話を聞きました

豊楽食堂 店主  
いわた ひろし

岩田 大 さん

## 南三陸町

自分を育ててくれたのは、南三陸さんさん商店街です。

「南三陸さんさん商店街は、大成功した商店街のひとつだと思います」と話すのは、豊楽食堂の岩田大さん。高校卒業後、南三陸で食堂を営む祖母の跡を継ぐべく、仙台の調理師専門学校に通っているとき、震災に遭いました。「幼いころから大好きな街だったので、ショックでした。平成24年2月にこの商店街がオープンすると知り、ここで働くことに心を決めました。祖母だけではなく、商店街の同業の先輩にたくさんのことを教えてもらい、技術の未熟さを痛感しました。

「豊楽食堂」は、平成29年3月の南三陸さんさん商店街本設移転に伴い、53年の歴史に幕を下ろしましたが、岩田さんは「料理の勉強をし直し、力を付けて復興した南三陸町に凱旋したいと思っています」と熱く語っていただきました。



地元の常連も多い岩田さんのお店。



人気の南三陸  
きらきら丼。  
写真は弁慶寿司。

VOICE of KEY PERSON

チームを支えてくれた皆さまに、  
結果を出すことで恩返ししたい。

## 女川町

青柳健汰さんは石巻市出身。社会人サッカーチーム「コバルトール女川」に所属し、平日は女川のかまぼこ屋「高政」の社員として働いています。中学1年でジュニアチームに入団。震災は高校2年のときでした。その後、高校卒業とともにトップチームに入団。「女川町のイベントやサッカー教室などを経験し、女川の復興に全力で取り組む方たちの力になりたいと思うようになりました。

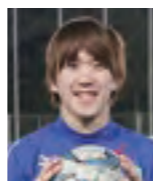
震災後、チームは活動を中止していましたが、町が一体となって活動再開をあと押し。「地域を活性化し、恩返しを」というスローガンとともに、青柳さんは選手経験を重ねています。「もっと試合に出て、いいプレーをして、地域の方たちを笑顔にしたい」。そう、力強く話してくださいました。



地元の人々で  
埋め尽くされたスタンド。



昨シーズンは、  
女川でホームゲームを  
9回開催。



NOW IS. Vol.2で  
お話を聞きました

コバルトール女川  
トップチーム所属

あおやぎ けんた

青柳 健汰 さん

VOICE of KEY PERSON



NOW IS. Vol.3で  
お話を聞きました

じえぶる岩沼  
東北茗荷村代表

こばや ひろみ

小濱 裕美さん

## 岩沼市

困っている人の縁をつなぐことで、  
被災地域を生きやすい場所に。

東日本大震災でより顕在化した、耕作放棄地の増加や社会的弱者の就業問題。それらに農業と福祉を連携させた取り組みで立ち向かっているのが「じえぶる岩沼」の小濱さんです。

耕作者がいなくなった田んぼを活用し、障がいを持った人や引きこもりの人、ひとり親家庭の人など、さまざまな事情で働けない人を農業とマッチング。「彼らの縁をつなぐことで、お互いに支え合う関係になれたらと考えました」。米の栽培の他に、平成27年からは、オリーブの栽培事業にも着手。「私たちは震災で、自分たちも自然の一部だ、と気付きました。土地と人とを結びつけることで、岩沼に元気を呼び込めたらと思っています」と語っていただきました。



平成28年の春、子供たちも交えて苗を植えた。



オリーブの葉は5年、  
実は10年ほどで  
収穫できる。

次世代を担う子どもたちへ。海の誇りをもってほしい。

津田さんは海苔の加工製造を行う「のり工房矢本」と連携しながらこだわりの海苔を届ける東松島市大曲浜の海苔漁師。「食べてくれる人の顔を思い浮かべながら育てること。必ず自分の舌で確かめて調整し、納得のいくものだけを商品にしています」。

その想いは、大曲浜全体の海苔の価値を高めたいという想いにつながっていきます。平成26年6月に開催された日本初の「海苔サミット」では、実行委員長を務めました。他にも学校での食育活動やワークショップなど、大曲浜の海苔を知ってもらうために活動中。「大曲浜の海苔がお土産の定番になるよう、東松島のブランドにしたい。誇れる商品があれば、子どもたちももっと地元と海を好きになってくれるはず」と東松島の今後に期待を寄せます。



NOW IS. Vol.4で  
お話を聞きました

のり工房矢本  
つだ ひろし

津田 大 さん

## 松島／東松島市



母親が立ち上げた  
「のり工房矢本」。



お店の前に置かれた昔の漁で  
使っていた浮き球。

VOICE of KEY PERSON



震災の年に飾られた8万羽の折り鶴の吹き流し。  
写真提供: 仙台七夕まつり協賛会



色鮮やかな吹き流しが街を彩る。

## 仙台市

恒例行事から、想いが詰まった祭りへ。生まれ変わる仙台七夕まつり。

鳴海屋紙商事は、明治時代から続く紙の卸問屋。130年以上仙台七夕まつりの飾りを作り続けています。同社本部長の鳴海幸一郎さんは、これまでに数万本の飾りを作ってきましたが、平成23年の仙台七夕まつりで飾られた8万羽の折り鶴の吹き流しを見て初めて涙が流れました。「商店街にとって、仙台七夕はルーティーンでした。でも震災を経て、あの飾りを見て、復興や元気など、想いを込めて作る飾りが増えてきたように感じています」。

交流事業も開催しており、昨年は外国人留学生や県内外の小学生が作った吹き流しも登場。「飾り作りを体験するなかで、毎日に感謝して、協力する気持ちが育ってほしい。私はその後押しをしたいと思っています」と語っていただきました。



NOW IS. Vol.5で  
お話を聞きました

鳴海屋紙商事本部長

なるみ こういちろう

鳴海 幸一郎さん

VOICE of KEY PERSON

地域に根ざした大学として、  
いつまでも寄り添い続けたい。

## 名取市

尚絅学院大学の学生たちが、避難所や仮設住宅でボランティア活動を始めたことをきっかけに、平成24年6月、ボランティアステーションが発足しました。渋谷佳代さんは、その中心的なメンバーとして活動しています。主な活動は、住民同士の交流を促進する「お茶会」を毎月開催すること。「学生だけが話をするのではなく、住民の方のお話を聞き出すように心がけています。時間がたったからこそ、心のケアが必要だと感じます」と渋谷さん。

住民の転居にともない、活動の場も従来の仮設住宅に復興公営住宅が加わりました。「若い人もお年寄りも過ごしやすい街をつくっていかれたらいいですね。私が卒業しても、次の人が活動を引き継いでもらえるように、頑張ります」と意気込みます。



若い人がくると元気になる」と住民の方。



活動を知って  
もらうため新聞も  
発行している。



NOW IS. Vol.6で  
お話を聞きました

尚絅学院大学  
ボランティアステーション

しぶや かよ

渋谷 佳代 さん



# VOICE of KEY PERSON



NOW IS. Vol. 7で  
お話を聞きました

気仙沼市  
指定無形民俗文化財  
浪板虎舞保存会 会長

おのぞら ゆういち  
小野寺 優一 さん

## 気仙沼市

浪板虎舞の団結力を活かし、復興を後押ししたい。

浪板虎舞は、気仙沼市浪板地区で約300年の歴史を誇る市指定無形民俗文化財。出漁している家人の無事帰還と大漁を祈願する芸能として伝承されています。震災後初の活動は、アメリカのモース高校の生徒たちから寄贈された激励の手紙や千羽鶴に、感謝の思いを込めて演じた虎舞。「虎舞を通して前向きな気持ちにつながればと言う人もいて、活動することを決めました」と会長の小野寺優一さん。

現在は、復興祈願はもちろん、全国の人たちの幸福を願い演舞しています。「中学・高校生になり部活動で忙しくても震災を機に郷土への思いや虎舞の楽しさを伝えたいと、行事の時には戻って活動してくれる子たちもいます。離れていても郷土芸能を通じてつながっている。今後も保存と継承を担っていきたいと思っています」と語ってくださいました。



浪板虎舞が  
飯綱神社に奉納された、勇壮な浪板虎舞。



毎年1月に  
初舞奉納をする  
飯綱神社。

VOICE of KEY PERSON

地域に根付いたミュージカルで、  
七ヶ浜の魅力を発信。

## 七ヶ浜町

平成13年4月に設立された「七ヶ浜国際村パフォーマンスカンパニーミュージカルグループNaNa5931」。小学生から社会人まで約30人のメンバーが、年1回の公演に向けて練習に励んでいます。高校生の鎌田恵利加さんは、震災1カ月後には練習を再開し、11月には復興がテーマの「ゴーへ Go Ahead」を公演。「涙を流しながら見てくれた人もいて、心を動かすことができたのかな？と思いました。これからも被災した人たちを元気づけたい、感謝の気持ちを伝えていきたいです」。

工業高校で土木を学ぶ鎌田さん。「土木は町の基礎を作ること。私も町のためになる仕事をしたいと土木科を選びました。みんなが笑顔になれるまちづくりに携わりたいです」とビジョンを描きます。



昨年公演された「おっぴいと海〜KAIRI〜」より。



「七ヶ浜の魅力を  
伝えたい」と鎌田さん。



NOW IS. Vol. 8で  
お話を聞きました

七ヶ浜国際村  
パフォーマンスカンパニー  
NaNa5931  
(ナナゴーキューサンイチ)  
かまた えりか  
鎌田 恵利加 さん

VOICE of KEY PERSON



NOW IS. Vol. 9で  
お話を聞きました

ビルドフルーガス代表

たかだ あや  
高田 彩 さん

## 塩竈市／利府町

未来を担う若者たちと、このまちの文化を築きたい。

カナダでアートマネジメントを学んだ高田彩さんは、地元で人とアートが出合う場所を作りたいと、平成18年にビルドフルーガスプロジェクトをスタート。若者がアイデアを交換し、創造力を刺激しあうギャラリー「ビルドスペース」を作り、ワークショップやイベントを開催していました。震災により、高田さん自身も被災しましたが、子供たちがストレスを発散できるよう、クイズやダンスのワークショップ、映画の上映会を開催してきました。

震災後、塩竈のこれからを考えるようになった高田さん。「後世に伝え残すべきこと、私たちがすべきことは何かを考え、実行するには、若者のエネルギーが必要です。歴史・文化・風土を学び直しながら、アートという入口を用意することで、地域に関わる面白さ、文化づくりの意義を共有できればと思います」と、アートを通じてのまちづくりを考えます。



「飛び出すビルド！」のワークショップ風景。



ビルドスペース

さまざまな人たちとつながる、イルミネーション。

「震災時にお世話になった方々へのお礼と、町の人たちが元氣なれたらと開催したのが始まり」と話す山上信彦さんは、山元町小平地区で毎年12月から1月にかけて開催している手作りのイルミネーション「コダナリエ」の実行委員長です。

山元町にボランティアで来ていただいた方々に、恩返しをしたいと考え、震災時、避難所となった山下第一小学校で、毎年開催していたイルミネーションを震災の年も行いました。「訪れた人が笑顔になってくれて、今後も続けていこうと思いました」。

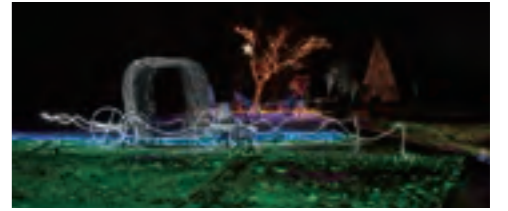
コダナリエの開催には約300人のボランティアが関わっています。「飾りつけから関わることで思い入れも増し、輪が広がることで長く続いていくと思うんです」。7万球からスタートし、現在は25万球。今後100万球まで増やしたいと山上さんは目標を掲げます。



NOW IS. Vol.10で  
お話を聞きました

コダナリエ実行委員会  
実行委員長  
やまがみ のぶひこ  
山上 信彦 さん

## 山元町



コダナリエの  
イルミネーション。



幅広い年齢層の  
来場者で賑わう会場。

VOICE of KEY PERSON



花器やテーブルウェアなどの雄勝石製品。



雄勝石の優れた  
特徴を生かした  
雄勝硯。

## 石巻市

雄勝硯を後世に伝えていきたい。

室町時代から硯の原料として使用されてきた雄勝石。千葉隆志さんは、雄勝硯が伝統的工芸品の指定を受けた昭和60年から、雄勝硯生産協同組合に勤務しています。「伝統的工芸品の指定は受けたものの、職人の高齢化や後継者不足など、衰退が目に見えていた状況でした」。そこで生活に直結した商品を開発。少しずつ雄勝石が知られるようになってきた時に、東日本大震災が起きます。

ボランティアの協力で11月までに仮設の工場や店舗を開設。彫刻家、武藤順九さん発案による「マイ硯」運動により、雄勝硯への関心、魅力を再認識してもらい、まちの復活、再生につなげています。「現在は若手職員の育成にも励んでいます。後世に伝え、歴史をつなげていきたいと思っています」。



NOW IS. Vol.11で  
お話を聞きました

雄勝硯生産販売協同組合  
事務局長  
ちば たかし  
千葉 隆志 さん

VOICE of KEY PERSON

子どもたちに  
「荒浜」での楽しい思い出を。

## 亶理町

「荒浜ロックフェスの『ロック』には、『前に進み続ける力強さ』や『このまちを必ず復活させる強い意志と固い決意』という意味が込められています」と話すのは、NPO団体スタンドアップ亶理代表の加藤正純さん。このイベントは、亶理町に住んでいる人や亶理町を応援したい人の交流を通して、地域を盛り上げ、子どもたちにも地域の魅力を感じてもらうことが目的です。

「子どものころ、夏といえば海で遊ぶなど、楽しい思い出は海とともにありました。海の楽しさを、今の子どもたちにも体感してもらいたいですね。荒浜がにぎわいを取り戻し、荒浜海水浴場と荒浜港がより盛り上がるよう、今後も活動を続けていきます。荒浜の海水浴場が再開したら、ビーチで開催するのが夢です」と夢はふくらみます。



平成26年7月に開催した「線香花火ナイト」を機に  
スタンドアップ亶理を結成。



NOW IS. Vol.12で  
お話を聞きました

NPO団体  
スタンドアップ亶理 代表  
かとう まさみ  
加藤 正純 さん



平成28年7月30日開催の  
「荒浜ロックフェス」。